

三体千字文を書く(3)

締切り 三月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

◆「千字文」

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

日月盈昃

星辰列張

日はきまり正しく運行し、月は満ちまたかける。

星座は天高く連なり輝き、

星辰列張

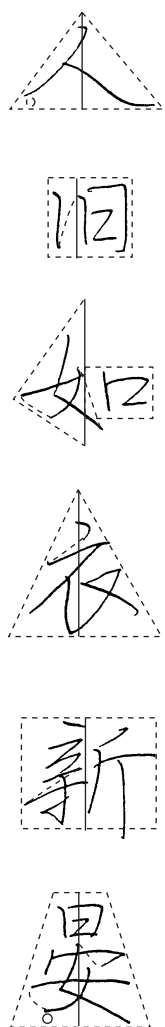
日はきまり正しく運行し、月は満ちまたかける。

星座は天高く連なり輝き、

準初段から六段まで

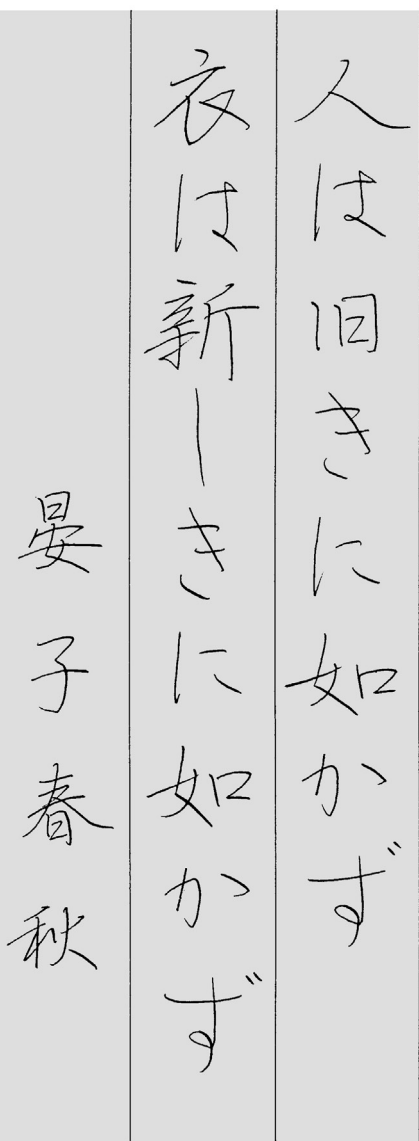
新入から1級まで

〔解説〕



◎今月は行書。行書という書体が楷書や草書と違うのは流動的な続けをするところに特徴がある。楷書のような字画を草書のように続けて書くとは行書になるということです。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

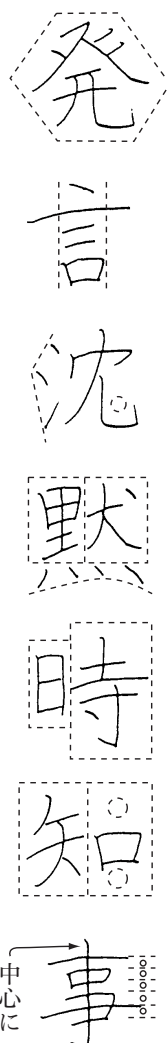


おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



中心に



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★発言と：（書体＝楷書）

セネカ（前四頃～六五）

ローマの哲学者、劇作家、政治家

セネカは追放生活を送った後、皇帝ネロの摂政を務めるまでの権勢を手に入れたのですが、ついには謀反の罪で自殺を命じられるという波乱万丈の生涯を送りました。日本でも政治家の何げない一言が騒動を巻き起こすことがしばしばです。上に立つ人ほど発言には十分配慮したいものです。

◆4月課題予告（行書）

人間は

物差しでは

測られぬ

★人は：（書体＝行書）

中国、春秋時代の齊の宰相晏嬰の

言行録「晏子春秋」より

人と接するのは、気持ちの知り合った昔なじみがいちばん落ち着くし、衣服は新しいものが着心地がいいということです。気心の知れた昔なじみの友や知り合いとの「絆」の大切さを説いています。

◆4月課題予告（楷書）

復讐は常に

ちっぽけで弱い

心の快楽である

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

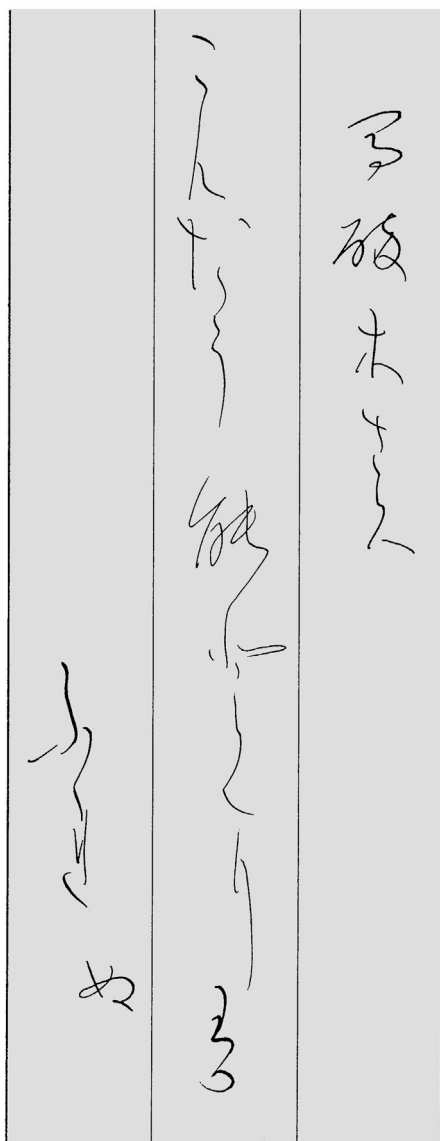
# 一般部かな課題

締切り 3月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

馬酔木咲く金堂の扉にわが触れぬ



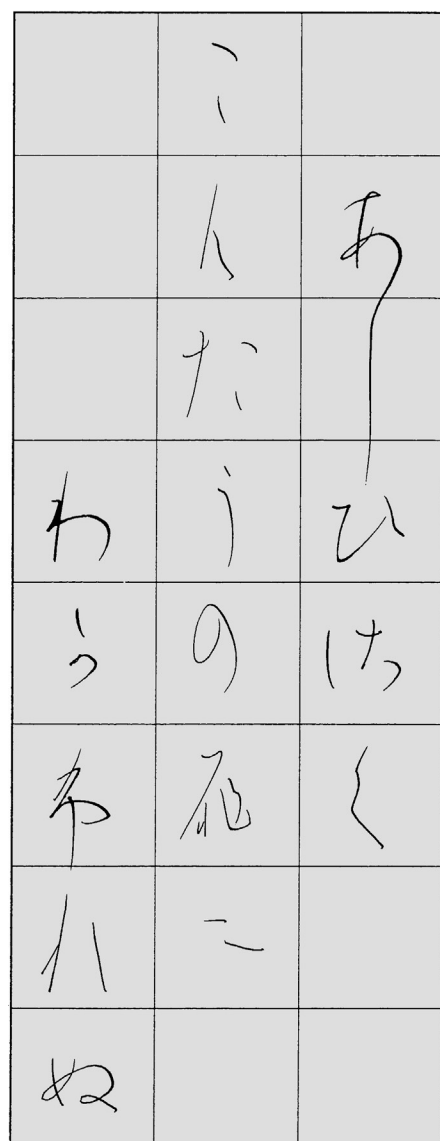
馬酔木咲く金堂の扉にわが触れぬ

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

おお みや しゅん ちょう 書  
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙



おお みや しゅん ちょう 書  
大 宮 春 兆 書

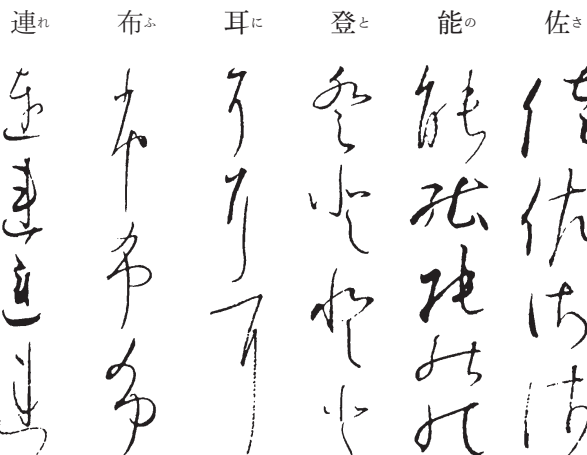
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

## ◆4月課題予告

春風や闘志いだきて丘に立つ

(高浜虚子)



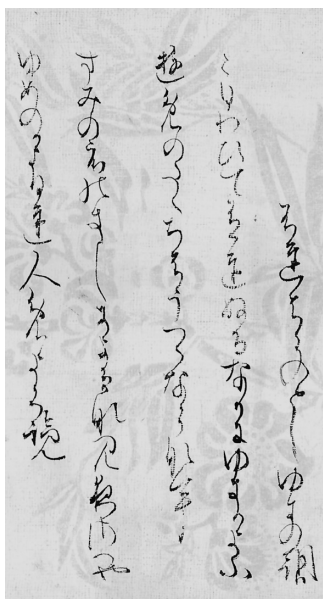
〔古筆参考〕

馬酔木咲く金堂の扉にわが触れぬ  
(水原秋桜子)

〔句意〕馬酔木の白い清楚な花が咲く、  
ここ大和の古寺は、実に静かなたたず  
まいを見せている。その憧れの古寺の  
扉にそっと手を触れたことである。

〔古筆参考〕

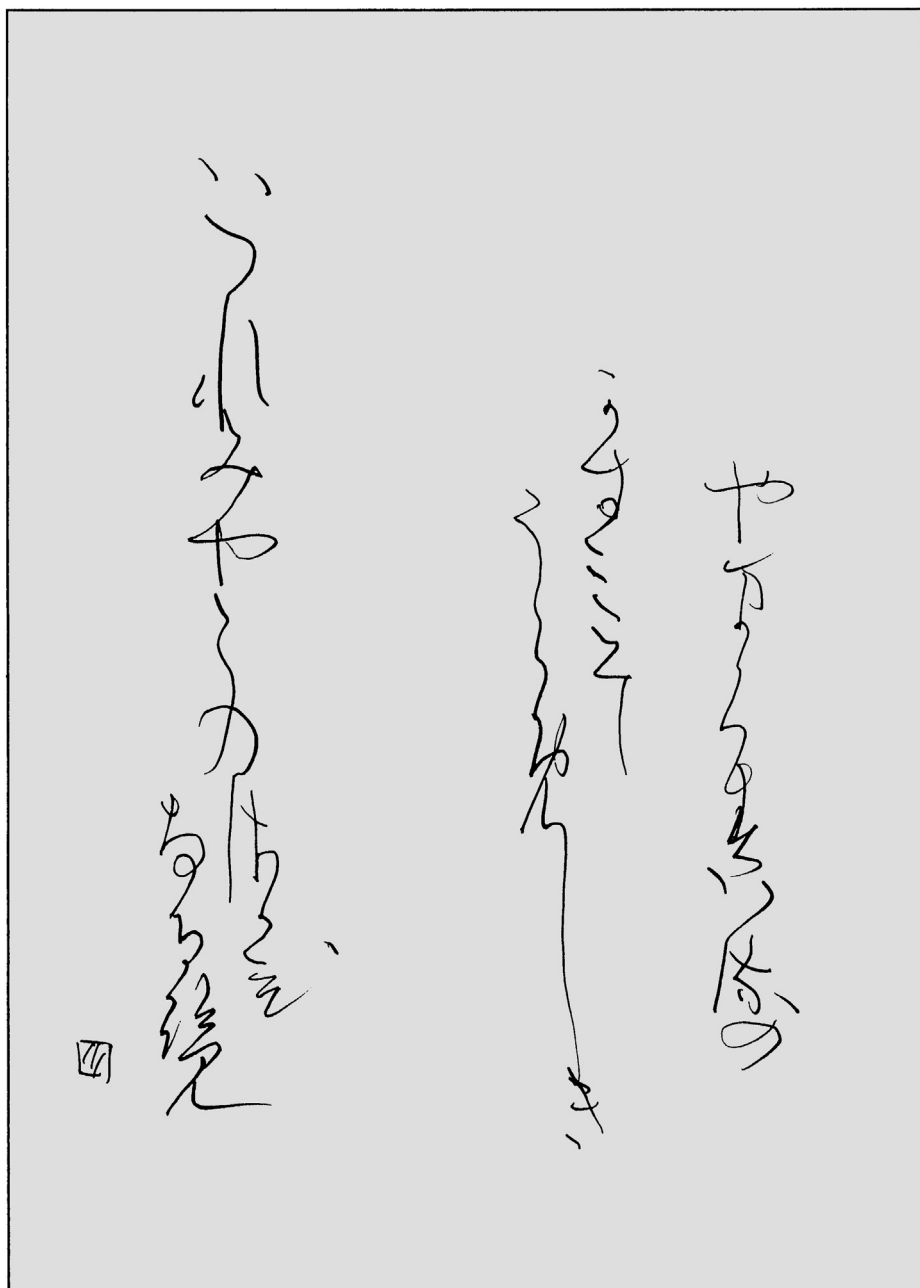
ほん あ み ぎれ  
本阿弥切



ふちはらのとしゆきの朝臣  
こひわびてうちぬるなかにゆきかよふ  
ゆめのたぐちはうつゝならなむ  
すみのえのきしによるなみ夜さへや  
ゆめのかよひち人めよく覧

締切り 三月二十四日(必着)

築瀬舟香書



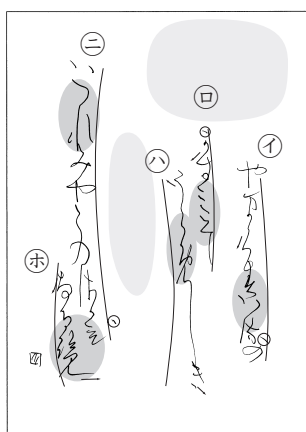
〔解説〕

(新潮日本古典集成)

山かくす春の霞ぞうらめしき  
いづれ都のさかひなるらむ

〔歌意〕山にかかつて展望をさえぎっている春霞が、まことにうらめしい。これではいいたい、どの山のむこうがあこがれの都なのか見当もつかない。

〔出典〕古今和歌集



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、④と⑤、④と⑥、それぞれ呼応。
- 大きな間。
- 行の中の密の動き大切。
- ↙ の方向大切。
- ・ 二行目⑤ 四行目⑥の点に注意。

本阿弥切とは②

料紙について少し記しておきます。

料紙は舶載の唐紙、白・藍・茶の具引地に夾竹桃、雲鶴、唐草文様などを雲母で摺り出した美しいものです。

※舶載＝舶来のこと。

参考資料「日本書道辞典」

「古筆に学ぶ」共に二玄社

◆4月課題予告

わたの原八十島かけて漕ぎいでぬと  
人にはつげよ海人の釣り船

締切り 3月24日(必着)

三月九日、長女愛菜が誕生しました。  
四人目は女の子だったらの願いが  
かない親戚中大喜びです。主人は  
「嫁には行かせない」ともうメロ  
メロ。腕白連もすっかりやさしい  
お兄ちゃんに变身しました。

◎手本は水性ボールペン使用

三月九日、長女愛菜が誕生しました。  
四人目は女の子だったらの願いが  
かない親戚中大喜びです。主人は  
「嫁には行かせない」ともうメロ  
メロ。腕白連もすっかりやさしい  
お兄ちゃんに变身しました。

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん  
岡 嶋 桂 川 書

近代オリンピック第1回大会は、  
参加選手285名で行われた。  
茨城県石岡市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 3月24日（必着）

斯  
道  
逾  
微  
方  
復

斯道逾微方復

〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（648?～703?）

〔読み〕こ斯の道 いよいよ逾 まさ微なり。方まさに復た

準初段から師範まで

奥おく  
村むら  
暢のぶ  
之ゆき  
臨

春 逐 鳥 聲 開

〔読み〕春は鳥声おを逐って開く

〔大意〕春は鳥のさえずりと共にはじまる。

新入から1級まで（楷書）

澤さわ  
静せい  
雨う  
書

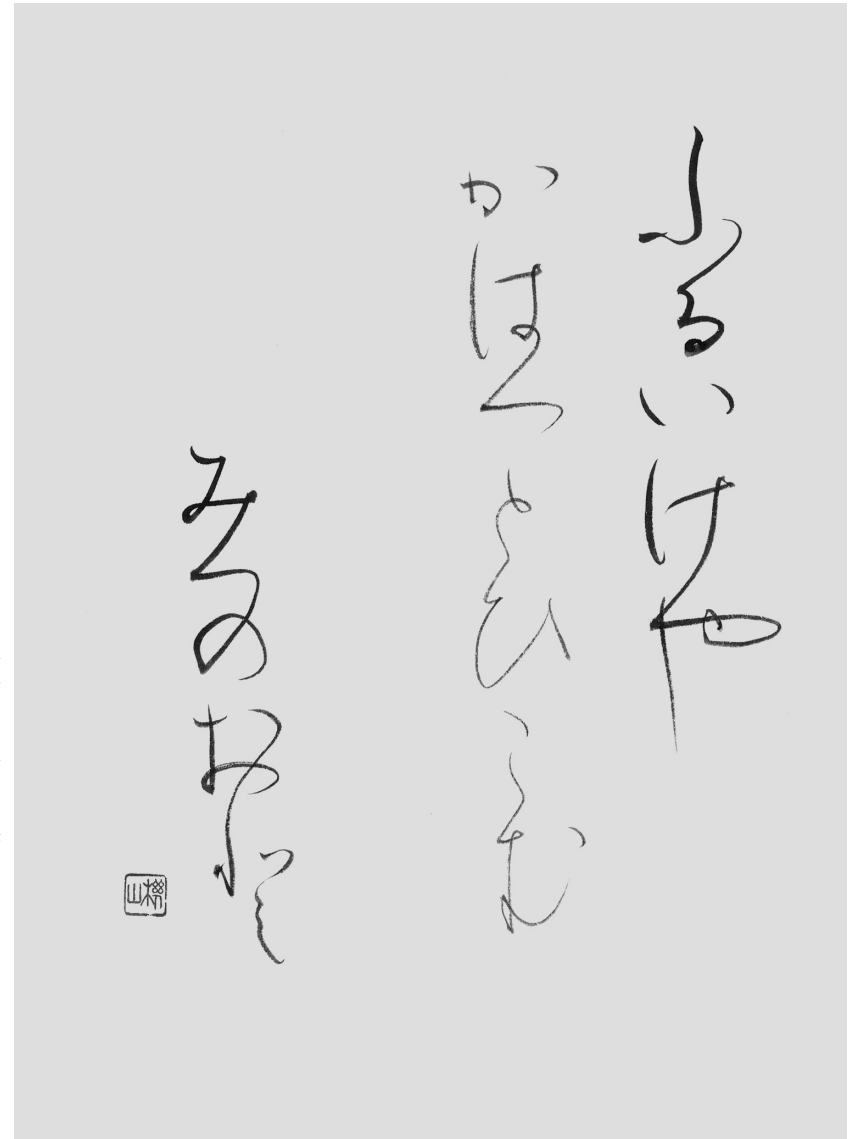


# 一般部毛筆かな課題

締切り 3月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

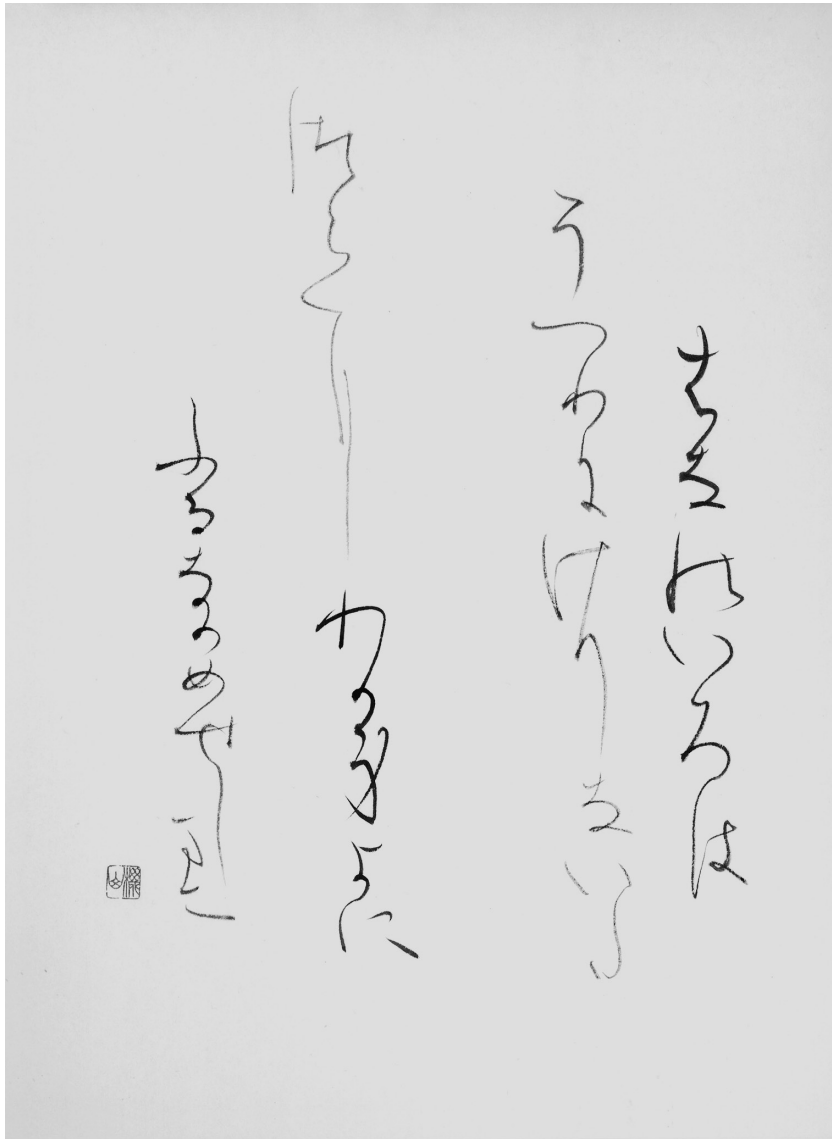


〔出典〕 松尾芭蕉

〔句意〕 清閑な古池に、蛙がおりおり飛び込む水音がし、波紋を描く。  
静と動との交錯がここにある。閑寂な境地をよんだ句。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕 小野小町

〔歌意〕 美しい桜の花の色は、見ることもなく空しく、衰えてしまった。  
春の長雨が降っていたあいだに。そしてわたくしが暮らしてゆく  
うえで物思いをしていたあいだに。

花の色は移りにけりないたづらに  
わが身世にふるながめせしまに

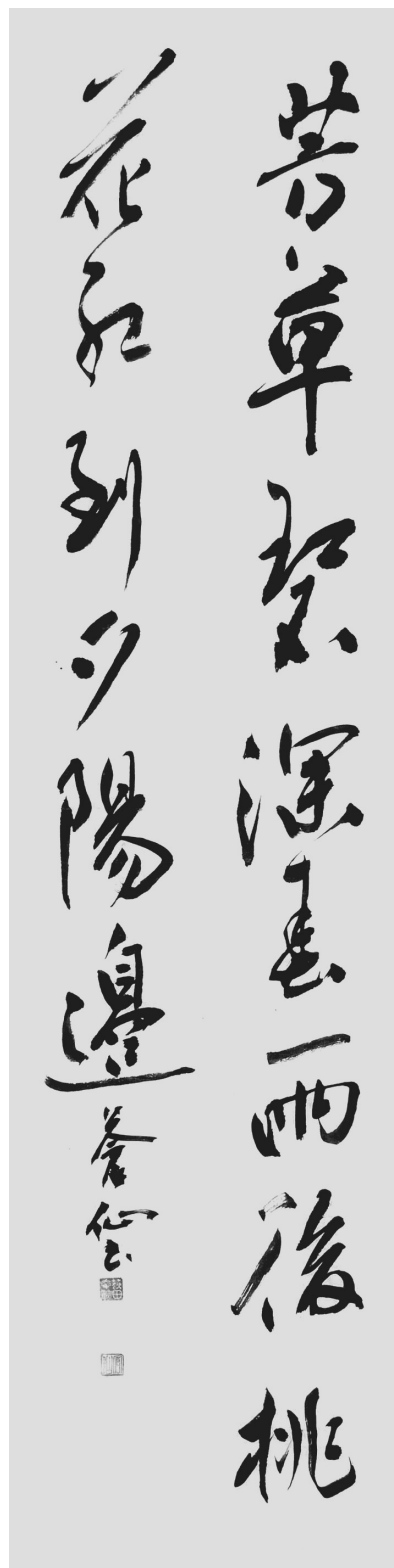
# 一般部毛筆細字課題

# 一般部毛筆条幅課題

締切り 三月二十四日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



芳草碧深春雨後 桃花紅到夕陽邊  
 〔大意〕春の草の緑は雨の後更に濃く、桃の花は夕日の照らす所が一段と赤い。  
 初出品の方へ  
 支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

## 〔条幅解説〕

歌舞伎の人間国宝の方が踊りを楷書で踊るように指導したと聞きます。書も同じく基本の楷書を疎かにしてはいけません。また行草体をうまくデフォルメしたつもりでも、作品として崩れていないか指導を受ける事が大切です。書道界を見渡して、師やコワイ人がいないと、この傾向になり勝ちです。一人よがりにならないで謙虚に学びましょう。これは私の反省でもあります。

ご希望の大学に合格おめでとう

これまでの努力が報われて本当に良かったね これからもチャレンジ精神で大きく成長して下さい

（ご自分の氏名）

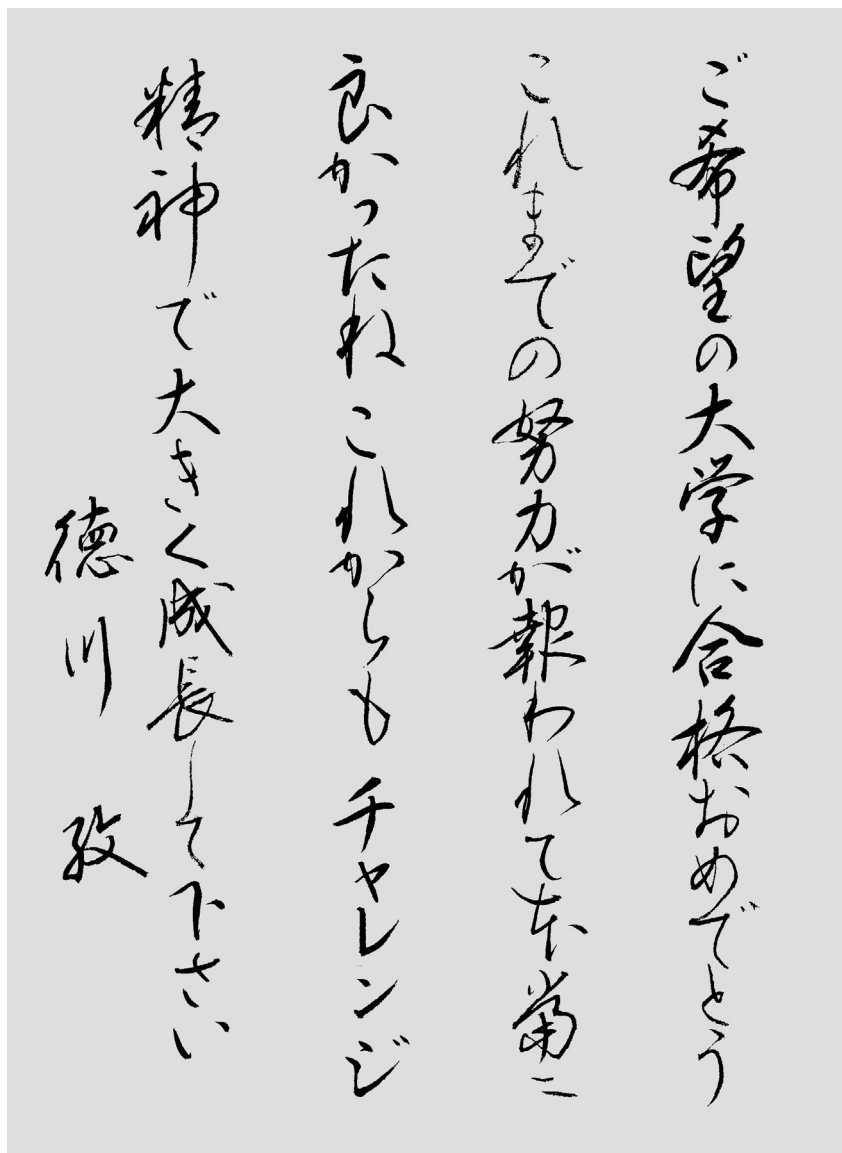
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

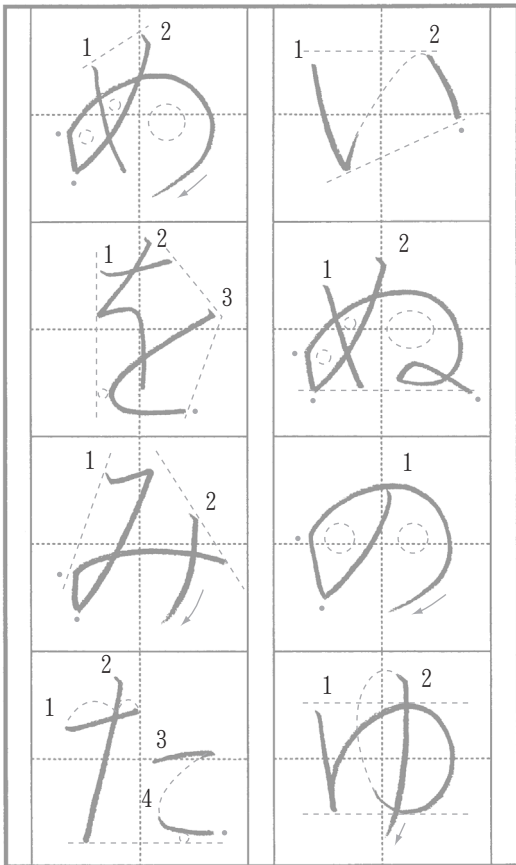


書 華 玲 田 樋

半紙（334mm×240mm）

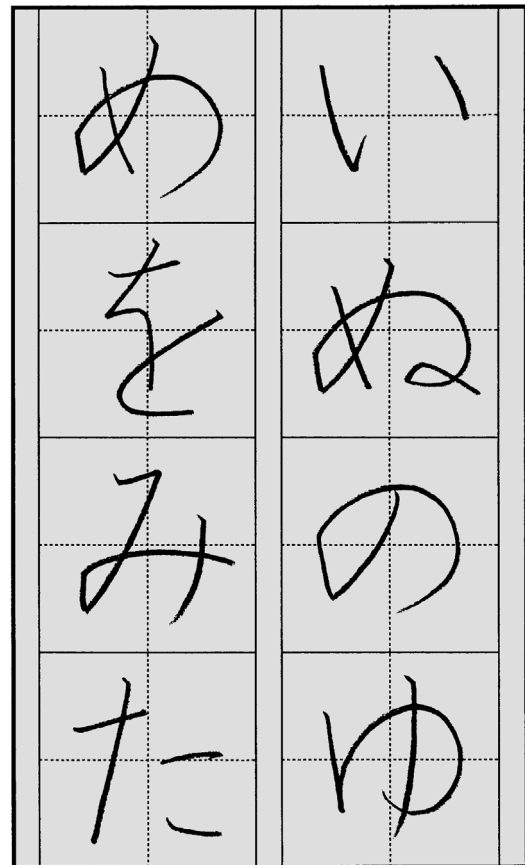


〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



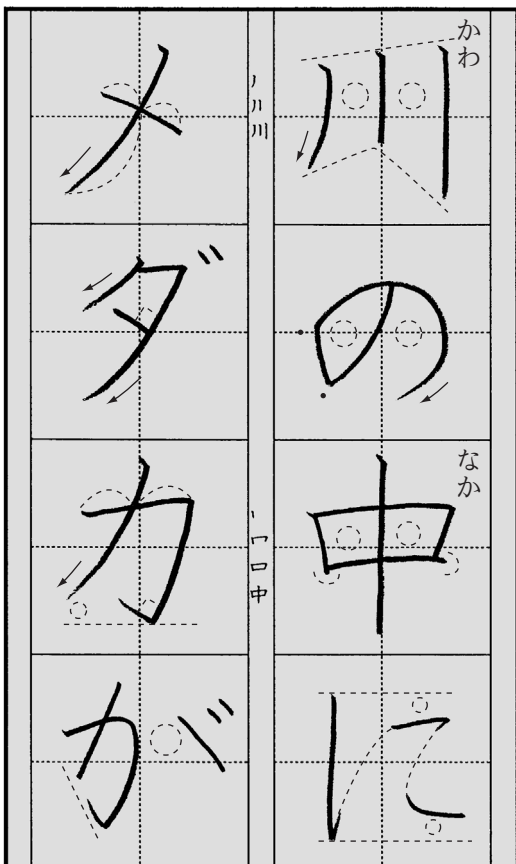
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ  
う  
年

小三年まで  
三宅容玉書



新入1級

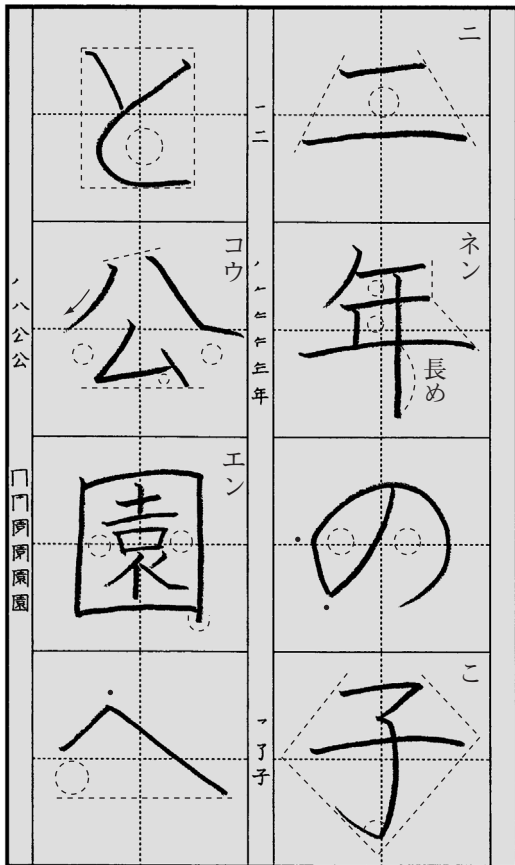
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使つてはいけません。



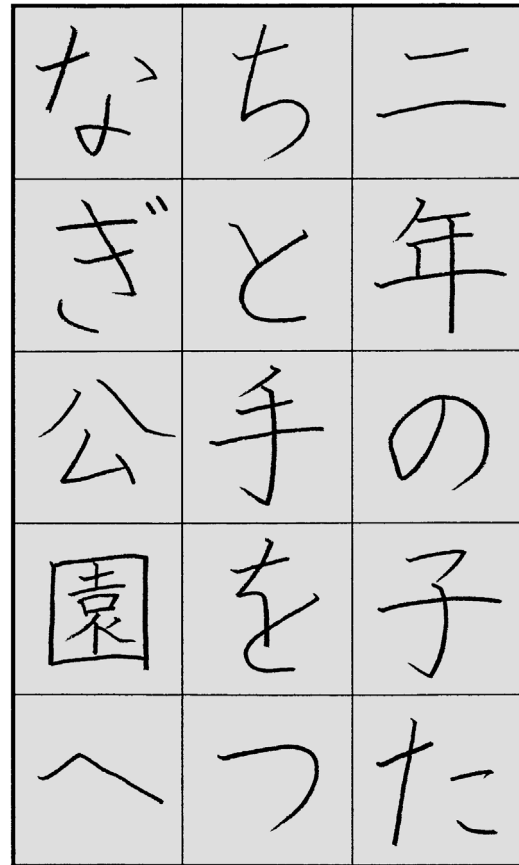
小  
一  
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

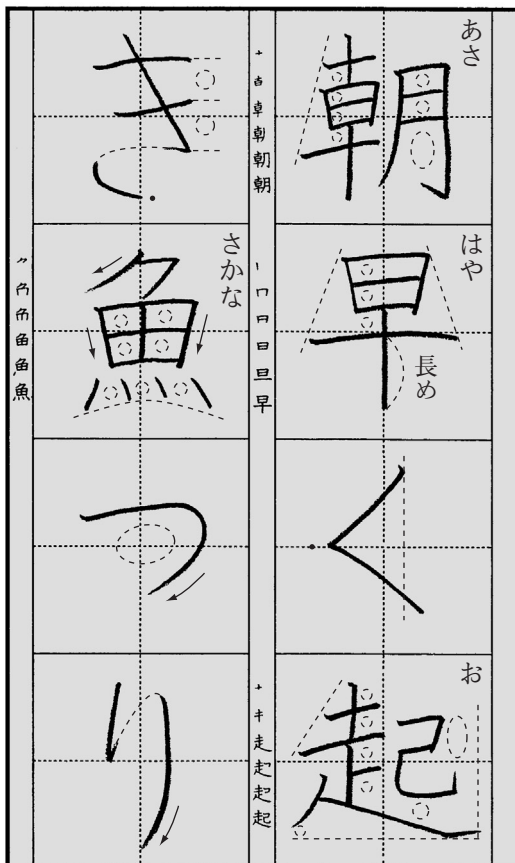


新入1級

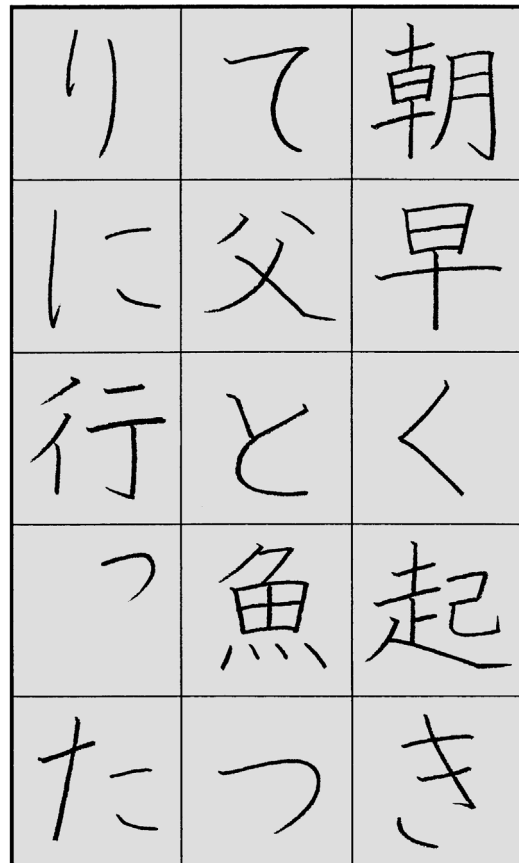


小 二 年

準初段以上



新入1級



小 三 年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

|   |   |   |
|---|---|---|
| と | ら | 観 |
| 晴 | 見 | ら |
| れ | る | ん |
| た | 景 | 車 |
| 空 | 色 | か |

準初段以上

新入1級

|   |   |
|---|---|
| 晴 | 観 |
| れ | ら |
| た | ん |
| 空 | 車 |

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

|   |   |   |
|---|---|---|
| 筆 | 定 | 書 |
| 順 | の | 写 |
| も | た | 技 |
| 学 | め | 能 |
| ぶ | に | 検 |

(全員)

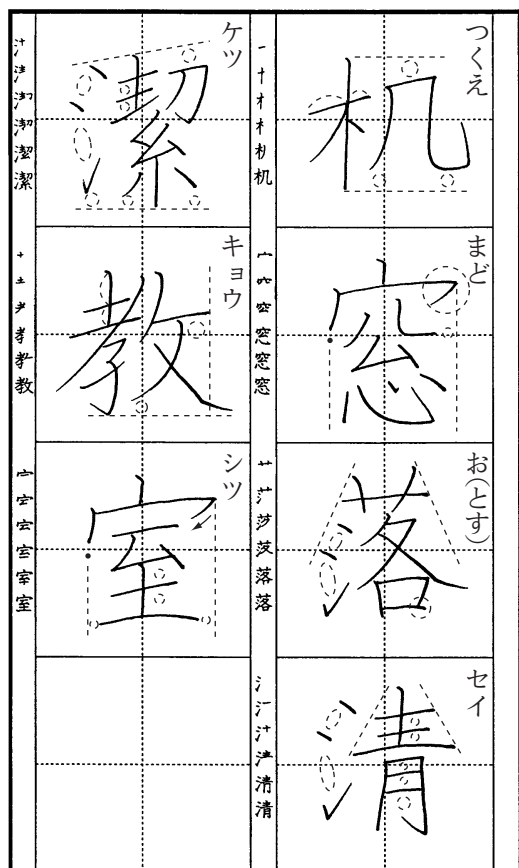
小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

|   |   |
|---|---|
| 検 | 書 |
| 定 | 写 |
| 筆 | 技 |
| 順 | 能 |

小四以上 須田一葉書

へようぐ 自由(黒色に限る)



解説(よく見て習いましょう)



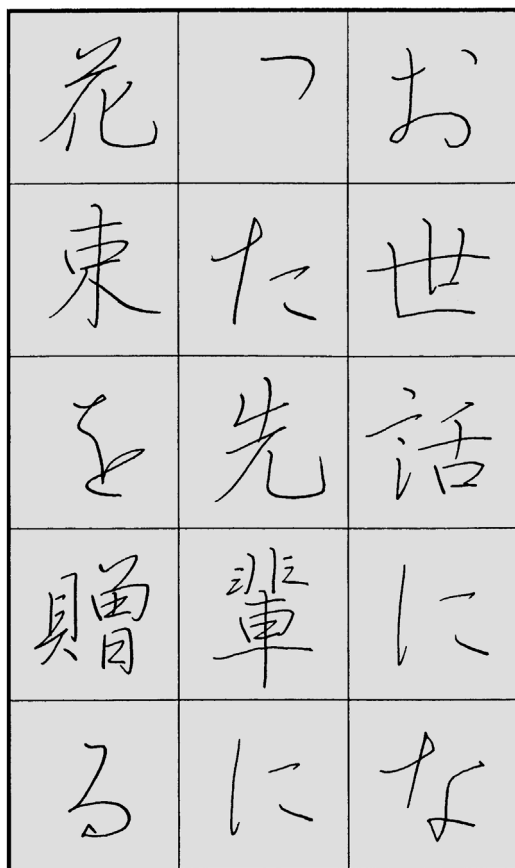
小六年

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。



中二・三年 (行書)



中一年 (行書)

▼小三年以下の課題

にの みや たい こう 書  
二 宮 泰 光

|   |   |   |    |  |
|---|---|---|----|--|
| 赤 | と | チ | た  |  |
| 、 | の | ユ | く  |  |
| 白 | 花 | ー | さん |  |
| 、 | 見 | リ | ん  |  |
| 黄 | て | ッ | さい |  |
| 色 | も | プ | いた |  |
|   |   |   |    |  |
|   |   |   |    |  |
|   |   |   |    |  |
|   |   |   |    |  |



しめきり 3月24日(必着)

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

くわ ばら えい うん 書  
桑 原 栄 雲

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 出 | 梅 | お | さ | 暖 |
| か | を | 弁 | そ | か |
| け | 見 | 当 | わ | い |
| ま | に | を | れ | 陽 |
| す |   | 持 | て | 気 |
|   |   | っ |   | に |
|   |   | て |   |   |
|   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |

◎お手本はえんぴつ使用

◎お手本はつけペン使用

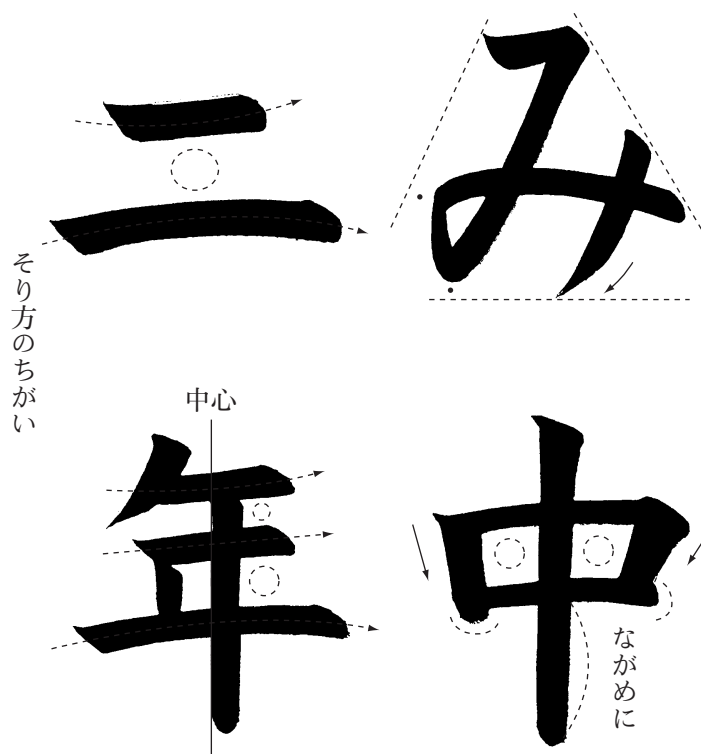
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年しゅんねん／小二年  
玉樹たまき  
小華書しょうか



小五  
筆順  
学

魚  
つ  
小三

筆  
順  
学  
中心

魚  
晴  
空

小四  
大  
空  
晴  
れ

小三、小五年

水野の香竹書

中二  
旬の野  
菜料理

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六  
の教室  
机

中一  
贈花束を  
る

贈 教 机 束  
旬 菜

まるみ  
くさかんむりの行書

※行書では線の連なりに注意